

# アグリジャンプ

# 4

2024 April

no.313



- ② 生産者紹介
- ③ H O T N E W S ! 女性組織新春の集い
- ④ **特集** アクテイブ・メンバーシップ
- ⑥ J A n e w s & T o p i c s ⑩ 営農情報
- ⑪ 女性組織 News ⑬ レシピ / 直売所情報
- ⑭ 健康百科 / 資産管理講座
- ⑰ 事業所だより



Instagram



公式HP



JAうつのみやイメージキャラクター  
ジャンプくん



耕そう、大地と地域のみらい。

## HOT NEWS!



宇都宮市で開かれた女性組織新春の集い



あいさつする同会の  
所洋子会長



体験発表を行う半田さん



講演する阿高さん



エレクトーンを演奏する  
倉沢さん

## 「女性組織新春の集い」初開催

### JA女性組織みどり会



JA女性組織みどり会は1月17日、宇都宮市のホテル東日本で「令和6年JAうつのみや女性組織新春の集い」を初めて開きました。JA女性組織会員やJAの役員ら201人が出席しました。

家の光記事活用体験発表では、国本支部の半田敬子さんが「みどり会活動を通して育まれる心と絆」を題に発表。女性組織への思いや「家の光」を活用した活動について紹介しました。

また日本協同組合連携機構基礎研究部主任研究員の阿高あやさんが「地域・JAの未来をつくる女性リーダーたちへ協同組合理解とJA運営参画」を題に講演したほか、倉沢大樹さんがエレクトーンを演奏しました。



# JAでは「アクティブ・メンバーシップ」の 確立に取り組んでいます

「アクティブ・メンバーシップ」とは  
組合員が「私たちのJA」意識を持ち、  
積極的にJA事業や活動に  
参加することです。

JAでは、組合員との対話活動を強化し、  
各活動を通じ組合員の意思反映に  
取り組んでいます。



## 2023年度JAの取り組み

### 役員による担い手訪問

JA常勤役員が生産者20軒を訪問。農業経営や地域農業に対する課題・要望などを把握するため役員による担い手訪問を実施し、事業計画に反映しました。

役員による担い手訪問



### 組合員総集会

管内4カ所で営農経済センターごとに組合員総集会を開き、組合員154人が出席。JA役職員が参加し、より多くの組合員と直接対話することで、ニーズに応えた事業展開を行うことを目的として毎年行っています。

組合員総集会



### 事業運営委員会意見交換会

JAの支所、営農経済センター8会場で事業運営委員意見交換会を開き、事業運営委員106人が出席。各地区の農業振興・地域活性化を図るため、地域の特性・事情を踏まえた意見・要望を話し合いました。

### 組合員訪問活動による対話

JAでは、全職員が毎月組合員宅を訪問しています。情報を発信するとともに、対話を通じて組合員の声に基づいた組織・事業運営に取り組みます。2023年度は11,633戸を訪問しました。

### 地域農業振興検討会

JAの支所、営農経済センター4会場で地域農業振興検討会を実施し、103人が出席。地域農業の課題や対策・農業振興について意見交換し、地域ごとに「地域農業革新戦略」を作成、事業計画に反映しました。

### 青壮年部との意見交換会

青壮年部員とJAの常勤役員が意見交換を行いました。直接対話を行うことで意識を共有し、意見を出し合いながらともに考えることでJAと青壮年部のより発展的な地域活動の実現を図ることが目的です。

青壮年部との意見交換会



### 准組合員モニター

准組合員モニター1期目が修了しました。「農業の応援団」として地域農業やJAの理解を深め、継続的な意見交換を通し事業運営に生かすことが目的で、計6回の活動で14人が参加しました。

「第5回准組合員モニター  
梨収穫体験」



## 黒崎浩史さんが「毎日農業記録賞」最優秀賞受賞 「2023年(第51回)毎日農業記録賞」



「毎日農業記録賞」で最優秀賞を受賞した黒崎さん(左)

宇都宮市の黒崎浩史さんが、農業や食、環境にまつわる体験や提言をつづる「2023年(第51回)毎日農業記録賞」(毎日新聞社主催)一般部門で、「稲穂の誓い」を題に農業への思いをつづり、最優秀賞を受賞しました。

黒崎さんは妻の順子さんとともに米麦や加工用ニンジンに合わせて20畝栽培しています。減反政策の廃止を機に加工用ニンジンの栽培を始めましたが、規模を拡大する中で労働力不足に直面。そこで始めたのが福祉施設の利用者が農作業に従事する「農福連携」でした。取り組みが評価され、2021年に県の「土地利用型園芸コンクール」で優秀賞を受賞した

際には、農作業に従事した利用者一人一人に感謝状を作って喜びを分かち合いました。

黒崎さんは今後の目標について「地域の高齢化が進んでいるので、規模拡大や農業用ドローンを活用した受託を拡大していきたい。生産量も増え、農福連携で働く人も増やせる」と語りました。

## 准組合員モニター制度1期が修了 第6回准組合員モニター「資産形成セミナー」・修了式



セミナーを聞く参加者



ユリを受け取った参加者

JAは1月17日、JA本所で第6回准組合員モニター「資産形成セミナー」・修了式を開き、モニターに応募した准組合員11人が参加しました。

同モニター制度は、JAが自己改革として掲げるアクティブ・メンバーシップの確立の一環として設置。農業・JAへの理解を深め、親しみを持ってもらい、継続的な意見交換を通し利用者の視点に立った事業運営に生かすことが目的です。

今回はJAが行う業務の一つである金融事業への理解につなげるため、JA貯金為替課の担当者が資産形成・運用について説明しました。修了式では参加者に宇都宮産のブランドユリ「ミヤリリー」の花束を贈呈。一昨年7月から始まった約2年間の活動を締めくくりました。

## 子どもたちのためペットボトルキャップ回収 JA女性組織・青壮年部



ペットボトルキャップ回収運動に取り組む参加者

JAは2月7日、女性組織と青壮年部が合同でペットボトルキャップの回収運動に取り組みました。JAは自己改革の取り組みとして「地域と持続可能な開発目標（SDGs）への貢献」を掲げ、21年度から継続して活動しています。

女性組織と青壮年部はそれぞれ、自宅にためたペットボトルキャップを取りまとめ、最寄りの営農経済センターに持ち込み、JA職員が巡回して回収。総量約710kgのペットボトルキャップが集まり、回収業者に託しました。

回収したペットボトルキャップは、世界の子どもの命を救うポリオワクチン約355本分になります。

## グリーンアスパラガス出荷最盛期に向け目ぞろえ会 JAグリーンアスパラガス専門部



目ぞろえをする参加者

JAグリーンアスパラガス専門部は2月8日、JA東部選果場で出荷目ぞろえ会を開き、部員や関係機関の担当者ら45人が参加しました。

県河内農業振興事務所の担当者が栽培管理について説明し、春先に発生が増えるアザミウマ類に注意を促しました。今後の管理について、適切な温度管理やかん水を呼び掛けました。

担当者が出荷規格や調整、荷造り方法について説明。長さの調整や病害虫果など規格外品について申し合わせました。参加者は現物を使って出荷規格を確認し、太さや穂先の曲がり、枝の伸びなどを確認しました。

## 講習会でべと病防除呼び掛け JA玉葱専門部



説明を聞く参加者

JA玉葱専門部は2月13、20日の2日間、栽培講習会と品種講習会をJA管内3会場で開き、約70人が参加しました。今年度は気温が高く推移し、病害虫の発生が例年より早いと想定されることから初めてこの時期に開催しました。

栽培講習会では、県河内農業振興事務所の担当者が生育経過などを報告。特にべと病について注意するよう呼び掛けました。また、農薬メーカーの担当者がべと病対策について説明。効果的な薬剤の散布方法などについて案内しました。

品種講習会では、種苗会社の担当者が作柄や品種別特性・栽培方法を説明しました。

## 良質なユリ出荷に向け目ぞろえ会・現地検討会 JA球根切花専門部



目ぞろえをする参加者

JA球根切花専門部は2月15日、ユリの目ぞろえ会と現地検討会を開き、部員や市場関係者、JAの担当者ら14人が参加しました。

目ぞろえ会は、JA東部選果場花き集荷場で行いました。同専門部の須藤智司専門部長らが梱包されたユリを1束ずつ掲げ、参加者全員でつぼみの状態や色づきなどを確認しました。

現地検討会は、宇都宮市のリリーランド・アマガイのほ場など5カ所で行いました。参加者は、需要期の春彼岸に向けて各ほ場を視察し、生育状況やハウス内の環境、品種などを確かめました。その後、総括検討会を開きました。

## 情報交換会で市場のニーズを掴む JAバラ専門部



品種を確認する参加者

JAバラ専門部は2月16日、宇都宮市内で情報交換会を開きました。部員や市場・仲卸の関係者ら14人が参加。バラの品種のサンプルを見ながら、討論形式で進めました。

市場・仲卸の関係者は「新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、消費トレンドが変わってきている」と話しました。これを踏まえ、販売現場ではどんな色や形、品種が求められているのかを確認しました。

品種検討会も開かれ、各品種の特徴や今後の取り組みについて意見を交わしました。

翌日は、JA管内の生産者のほ場2カ所を巡回。バラの生育状態などを確認しました。

## イチゴ販売後半に向け目ぞろえ JA苺専門部



目ぞろえをする参加者

JA苺専門部は2月20日、宇都宮市内で中間販売検討会を開き、部員や県、JA、市場の担当者ら55人が参加しました。

同専門部の全品種を合計した中間販売実績は、販売数量1045トン（前年対比104%）、販売金額18億4千万円（同比111%）、平均単価は1キロあたり1761円（106%）でした。

目ぞろえ会ではJAの担当者が「とちあいか」「とちおとめ」「スカイベリー」各品種の出荷時の注意点について説明し、選果・選別の徹底や満杯詰め、カラーチャートの厳守などを申し合わせました。また、市場担当者が各品種の現物を使い出荷規格を説明しました。



JA総合販売課ブース



JA莓専門部宇都宮支部青年部ブース

### うつのみや地産地消マルシェに出展 (1月27日)

JA総合販売課とJA莓専門部宇都宮支部青年部は、宮みらいライトヒルで開かれた「うつのみや地産地消マルシェ」に出展。管内農産物をPRしました。



盟友が作った米を提供した青壮年部の杉山司さん (右)

### 子ども食堂に米を提供 (2月5日)

JA青壮年部は、昭和子ども食堂に青壮年部盟友が作った米 (コシヒカリ) 90kgを提供しました。



販売ブースの様子

### かみマル収穫祭に出展 (2月23、24日)

ジョイフル本田 宇都宮店で開かれた「かみマル収穫祭2024立春 一期一会!! 莓まつり!!」に上三川いきいきプラザ農産物直売所が出張しました。



みどり会支部長会議の様子

### みどり会支部長会議を開催 (2月15日)

JA女性組織みどり会は、JA本所でみどり会支部長会議を開きました。



調理するグループ会員



机に並ぶ今回のメニュー

### なの花会中央グループが調理ボランティア (2月26日)

JA女性組織なの花会中央グループは、昭和孩子食堂で調理ボランティアを行いました。参加者は「春らしいメニューを考案しました」と話しました。

組合員の皆さまからの地域の話や活動報告をお待ちしております。写真を添えてお送りください。  
※紙面の都合上、掲載されない場合もありますのでご了承願います。詳しくは総合企画課組合員広報係まで。



## 水稲



令和5年産は栽培期間を通して高温が続いたため、乳白色や胴割れなどの被害が例年よりも多く確認され、カメムシによる被害も増加しました。気象変動の影響を最小限に抑え、収量・品質を安定させるために適切な土づくり・水管理・適期防除を行うよう、計画的な準備をしていきましょう。

### がっしりした苗を育てる温度管理

ビニールハウスで平置出芽を行うときは、ハウス内温度が35℃以上にならないよう好天の日はハウス換気し、緑化後は左表の温度管理をして、いずれの時期も30℃を越えないようにし、苗が大きくなるに従い外気に慣らします。

育苗初期	昼間 18～25℃ 夜間 10℃(最低でも5℃以上)
育苗中期	昼間 18～25℃ 夜間 5～7℃
育苗後期	

### 水の管理

灌水は早朝から午前中を基本とし、夕方は灌水しないようにします。苗が小さい時期や低温・曇雨天の日は葉からの蒸散も少ないので必要以上に灌水しないようにしましょう。灌水過多は根が生育不良になり徒長します。また「ムレ苗」の発生原因に

もなりますので、灌水を控えめにし、夕方には地表が乾く程度にしましょう。緑化後に天気が悪く日中も葉先の水が消えないときは、灌水をやめ換気をしましょう。移植直前にはサイドビニールを開け、十分な換気をして外気に慣らします。

### 田植えの準備 深く耕す

深く耕すと根張りが良くなり、登熟が向上します。また、白未熟粒や胴割れ米の発生を抑えられるとともに、食味の向上にもつながります。ロータリーで速度を落とすとして耕運すれば、通常のトラクターでも十分なので、15℃以上の耕深を目標に丁寧に碎土しましょう。

### 除草剤の効きを良くするために

雑草を抑える除草剤は、省力と生産安定に大変な効果をもたらしますが、ときに期待した効果が得られないことがあります。雑草の発生状況にあった除草剤を選び、袋や容器の「使用上の注意事項」に従って使用するのが確実に効果させる方法といえます。

大抵の除草剤は「4～6℃のやや深水として散布後1週間くらい落水・かけ流しをしない」としています。これは除草剤が水に溶けて処理層ができるまでに必要な日数なので、実施した作業です。そのために田植え前の作業で次のことに注意しましょう。

●畦塗りをを行いネズミの穴などをしっかりと塞ぎ、畦畔からの漏水を防ぎ

ましょう。

●深水は薬害に、土の露出は除草効果の低下につながります。代かきを丁寧に行い、高低差を少なくしましょう。

## 麦



今年産麦の生育は、平年より進んで推移しています。赤かび病防除や収穫時期について、麦の生育を見ながら計画的に行いましょう。

### 赤かび病防除

麦が凍霜害を受けた場合は、不稔粒の発生が心配されるので赤かび病防除をしっかりと行いましょう。

二条大麦は、穂揃期7～10日後が薬剤防除の適期です。使用時期は収穫21日前までなので注意しましょう。小麦は1回目の散布を開花始めに行い、2回目の散布を1回目の散布



湿害を受けた麦

### 排水溝の補修

気象庁の予報で4月の降水量はほぼ平年並みですが、近年では季節外れの大雨が降ることがあります。また、田植えの準備に伴い隣接ほ場からの浸水もあります。麦にとつてほ場の滞水は収量・品質を落とす要因になるので、稲の作業が忙しくなる前に排水溝を補修し、速やかに排水ができるようにしましょう。

### カラスムギの駆除

カラスムギの種子は大きく、麦に混入した場合、選別機で完全に除去することは不可能です。カラスムギは脱粒しやすいので、放置するとほ場に種子が落ち、翌年には急増します。除草剤で除去することができないので、見つけ次第株ごと抜き取りましょう。抜き取った株はほ場から確実に持ち出して処分しましょう。



ほ場に発生したカラスムギ



令和6年JAうつのみや女性組織新春の集い



募金の目録を持つ所洋子みどり会会長(右)と丸山明子みどり会副会長(左)



ペットボトルキャップ回収運動

## 令和5年度の活動を振り返って

令和5年度、女性組織は例年の活動の他に新たな活動にも取り組みました。

令和6年1月には、これまでの「家の光大会」と「女性組織学習会」を併せた「令和6年JAうつのみや女性組織新春の集い」をホテル東日本宇都宮で開催しました。家の光記事活用体験発表や講演、エレクトーン演奏会と盛りだくさんの内容で、多くの会員や来賓の方にご参加いただき、大変ご好評いただきました。その中で、1月1日に発生した「能登半島地震」で被災した地域への募金活動を女性組織全体で取り組むこととなりました。各女性組織の各支部・グループで募金への協力を呼び掛けたところ、総額で244,961円が集まりました。全額が日本赤十字社 栃木県支部を経て被災地に送られます。

また、SDGs活動にも積極的に取り組んでいます。ペットボトルキャップ回収運動は20年度に取り組みを始めてから令和5年度までで約7,218個、ポリオワクチンに相当すると約3,609本分のキャップが集まりました。子ども食堂での調理ボランティア活動は今年で4年目に突入します。さまざまなレシピを提供し、調理を行い、大変喜ばれております。

他にも旅行やレクリエーション大会など楽しい活動も行っています。JA女性組織は他の組織にはない魅力がたくさんあります。今年度もさまざまな活動を計画しておりますので、女性組織活動に興味がある方はぜひご連絡ください。

お問い合わせ：JAうつのみや 総合企画課 ☎028-688-0029



牛乳をもっと食卓に

# おいしいミルクレシピ紹介



牛乳を下味 & 衣に使って、薄味でもおいしい!

## やわらかとんかつのヨーグルトタルタル



出典●Jミルクウェブサイト「ミルクレシピ」

### 材料 (2人分)

- 豚ロース肉(とんかつ用).....2枚(250g)
- 牛乳.....30ml
- A** 塩.....小さじ1/4
- こしょう.....少々
- パン粉.....2カップ
- 揚げ油.....適量
- 青じそ・キャベツ.....適量
- 卵.....1個
- 牛乳.....30ml
- 小麦粉.....小さじ6

### ●ヨーグルトタルタル

- プレーンヨーグルト.....150ml
- パプリカ(みじん切り).....50g
- B** たまねぎ(みじん切り).....30g
- オイスターソース.....小さじ2
- すりごま(白).....小さじ1

### 作り方

- ① 豚肉は両面を包丁の背で細かく20～30回ずつたたき、一回り大きくする。パットなどにAを合わせ、豚肉を20分間漬ける。
- ② ボウルに卵を割り入れてほぐし、牛乳、小麦粉を加えてよく混ぜる。
- ③ 豚肉に②をからめたら、パン粉をまぶしつけ、かるく押さえるように衣をつける。
- ④ フライパンに油を2cmの深さまで入れて中火で170～180℃に熱する。③を入れ、火を少し強め、5～6分かけて揚げる。途中で一度、裏返す。
- ⑤ 器に青じそを敷いて④を盛り、食べやすく切ったキャベツを添える。Bを混ぜ合わせ、全体にかける。

# 直売所情報

## おかげさまで開業5周年記念フェア 上三川いきいきプラザ農産物直売所 4/13(土)

当日お買い上げ税込み1,000円以上のお客さまに抽選で賞品をプレゼント!(ハズレ無し)  
※賞品がなくなり次第終了となります。あらかじめご了承ください。



## 夏野菜の苗、花の苗 好評販売中

育ちが良いと評判です。種類も豊富に取りそろえています。春まき苗はぜひJA直売所で!



【対象店舗】JAグリーンインターパーク、JAグリーンかみかわち、南河内グリーンセンター

## お米の特売日

JAうつのみや おすすめの「みやおとめ(コシヒカリ)」をお買い得価格にて販売します!!

**JAグリーンインターパーク** 毎月5日、第3日曜日(4/21)

**JAグリーンかみかわち** 毎月8の付く日(4/8、18、28)

## 南河内グリーンセンター

**4/19(金)～21(日)は 生産者さん募集中!!**

### 特売デー

4/19(金)は特別感謝フェア実施!詳細は店舗まで。

詳しくは上三川営農経済センター 営農課(南河内)直売所担当者まで  
**TEL:0285-43-6010**

## JA直売所のご案内(4月)

店舗	電話	営業時間	定休日
「えきの市場」内JA農産物直売所	028-627-8438	10:00～20:00	なし
JAグリーンインターパーク	028-656-1212	8:30～17:00	なし
JAグリーンかみかわち	028-674-2711	9:00～17:00	第2火曜日(4/9)
南河内グリーンセンター	0285-44-3371	9:00～17:00	第3水曜日(4/17)
上三川いきいきプラザ農産物直売所	0285-55-1515 <small>上三川営農経済センター営農課(上三川)</small>	9:00～13:00	第2火曜日(4/9)、いきいきプラザ閉館日(4/29、30)



# 上河内支所 **たより**

各支所の活動や地域の情報をお届けします！



## 栃木県防災館

上河内支所管内にある栃木県防災館を紹介いたします。

現在、地球上では今までの想像を遥かに超えるさまざまな災害が発生していますが、皆さん備えは大丈夫ですか？災害は「知る」・「見る」・「体験する」ことによって不慮の災害からご自身・ご家族の身を守ることができます。

防災館では最大震度7までの地震・煙迷路・大雨・大風などの疑似災害を無料で体験することができます。また、過去の栃木県内外の災害情報の展示や家庭に備えておきたい災害セットの紹介など、普段の日常生活では思い付かない事を学ぶことができます。

栃木県は比較的安全な県と思われていますが、いつどのような災害が起こるか分かりません。ぜひこの機会にご家族で体験されてはいかがでしょうか。



地震体験



大雨体験



煙迷路体験